

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	文学科	夜・通信	0	0	20	20	13	
	教育学科	夜・通信			19	19	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		0	17	17	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	18	18	13	
	経営学科	夜・通信			16	16	13	
経済情報学部	経済情報学科	夜・通信		0	16	16	13	
芸術学部	芸術学科	夜・通信		0	20	20	13	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	夜・通信		0	15	15	13	
栄養学部	栄養学科	夜・通信		0	15	15	13	
人間健康学部	スポーツ健康学科	夜・通信		0	16	16	13	
	健康栄養学科	夜・通信			16	16	13	

(備考)

文学部教育学科は令和4年4月から学生募集停止のため、3～4年のみ在籍。  
 教育学部は令和4年4月開設のため、1～2年のみ在籍。  
 スポーツ科学部及び栄養学部は令和3年4月開設のため、1～3年のみ在籍。  
 人間健康学部は令和3年4月から学生募集停止のため、4年のみ在籍。  
 スポーツ健康学科及び健康栄養学科は4年次開講科目のみでは、基準単位数に満たないため、従前の教育課程に基づき、記載を追加。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページ「情報公開」

「大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る事項」

<https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/syuugakushien/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ「情報公開」 「大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る事項」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/syuugakushien/">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/syuugakushien/</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社代表取締役	2023.1.19～ 2025.1.18	学園総括
非常勤	会社相談役	2023.1.19～ 2025.1.18	企業経営の経験か らの意見
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  学位授与の方針と整合した到達目標、明確な成績評価基準など学生等に対して示すため、シラバス作成要領を作成し、これに基づいてシラバスを作成している。さらに、作成したシラバスは、記載内容が訂正であるかを学部長等による第三者チェックを行い、基準に合わない内容に対しては訂正・修正を行っている。シラバスは本学HPに掲載し、学生ほか一般者への公開を行っている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本学ホームページ  <a href="https://cmweb.kanazawa-gu.ac.jp/campusweb/slbsskgr.do">https://cmweb.kanazawa-gu.ac.jp/campusweb/slbsskgr.do</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)                  単位取得は、試験、レポート、作品提出、授業貢献度等を総合して評価している。成績評価はあらかじめ設定した基準により、厳正かつ適正に実施しており、この基準は、学生配付の学生便覧に掲載して公開している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学ではGPA制度を導入しており、この値はポータルサイトで自らの学修成果の推移を確認することができる。

判断基準及び算出方法については、学生便覧に以下の通り、掲載している。

<学生便覧 (pp. 26~27) より抜粋>

(8) . GPA について

本学では、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPA は学内ポータルサイト (Campusmate) で確認できる。

①GPA の意味と活用

・GPA の値とは、各自の成績を数値化したものである。学期や学年毎のGPA や入学からの通算のGPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。

I . 本学が学生の学修状況を測定・把握し、学修到達度を検証するために活用する。

II . 進級判定・卒業判定に活用する。ともに基準は原則1.0以上とする。

III . 各種奨学金の受給審査や学業成績に関する学長褒章の候補決定のために活用する。

②GPA 対象科目

GPA の対象となる科目は、各学部が規定する卒業要件に係わる授業科目とする。(不合格科目も含む。)ただし、履修取消期間内に科目登録を取り消した科目は GPA の対象とならない。また、他大学等で修得した単位で、本学の単位として認定された授業科目は、GPA の対象とはしない。

③判定基準

GPA は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりの GP 平均値 (Average) である。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	秀	100 ~ 90	4	特に優れた成績
	優	89 ~ 80	3	優れた成績
	良	79 ~ 70	2	良好な成績
	可	69 ~ 60	1	合格と認められる成績
不合格	不可	59 以下	0	不合格
	放棄	—	0	放棄
認定	認定	—	—	他大学等で修得した科目を認定した場合

④ GPA の計算式

$$\text{GPA} = (\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1) \div \text{総履修登録単位数}$$

GPA の値には、不可、放棄の評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧に掲載 なお、学生便覧は本学ホームページ「情報公開」 「4. 修学に関する情報」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/handbook_2023_university_graduateschool.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/handbook_2023_university_graduateschool.pdf</a>に掲載するとともに、本学教務部にて閲覧できる。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件は学則に定められており、これに基づいた各学部学科における詳細内容は学生便覧に掲載されている。 卒業者については、各学部学科での教授会での審議を経て決定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学生便覧に掲載 なお、学生便覧は本学ホームページ「情報公開」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/handbook_2023_university_graduateschool.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/handbook_2023_university_graduateschool.pdf</a>に掲載するとともに、本学教務部にて閲覧できる。</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/taisyakutaisyohyo_2022.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/taisyakutaisyohyo_2022.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/syushikeisansyo_2022.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/syushikeisansyo_2022.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/zaisanmokuoku_2022.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/zaisanmokuoku_2022.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/jigyohoukokusyo_2022.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/jigyohoukokusyo_2022.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/kanjikansahokokusyo_2022.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2023/06/kanjikansahokokusyo_2022.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ「情報公開」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/R3_jikotennkenhyoukasyo_09kanazawa_gakuin_university.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/R3_jikotennkenhyoukasyo_09kanazawa_gakuin_university.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/R3_daigakukikannbetsuninnsyohyokahoukokusyo_09kanazawa_gakuin_university.pdf">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/R3_daigakukikannbetsuninnsyohyokahoukokusyo_09kanazawa_gakuin_university.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
(概要) 言語や文化についての広汎な知識と、人間及び人間社会に対する深い洞察力を涵養して、自他の文化を担う人間同士の円滑なコミュニケーションに資することのできる創造性豊かな人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
(概要) ○文学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士(文学)」の学位を授与します。 1. 主体的に課題を発見し、考え、解を見出す力を身につけている。 2. 他者とのインタラクション(相互作用)を通して、見出した解をさらに発展させることができる力を身につけている。 3. 文学、言語、心理、歴史などを通して、人間や社会に対する深い洞察力を身につけている。 4. 地域社会において、その文化的発展に資する積極的な姿勢を身につけている。 ○教育学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士(教育学)」の学位を授与します。 1. グローバルな視点で発想し、地域社会の教育と文化の発展に貢献できる。 2. 教育に関する諸課題を主体的に発見・分析・理解し、幅広い専門的知見をもとにその対応策について協働的に考え、行動できる。 3. 豊かな人間性や感性を備えた高度専門的職業人としての使命と責任を自覚し、継続的な自己研鑽への意志をもって教育活動に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
(概要) ○文学科 文学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。 1. 大学教育の基礎となるスキルを身につける初年次教育 2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育 3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育 4. 自分の適性を見きわめ、人生を設計する力を身につけるキャリア教育 5. 他専攻の専門科目の受講を必須とする、人文科学・社会科学を横断的に学ぶ履修制度 6. 地域社会を学びの場とした教育 7. 自ら選択した学問分野の知識を深める専門教育 8. 主体的学修の集大成としての卒業研究 ○教育学科 教育学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。 1. 学習指導論、教職論、保育原理などに関する教育学分野を中心に、教育活動全般で活用する基礎的な知識・技能の修得から専門的な知識・技能の修得に関する教育課程を体系的



<p>に編成する。</p> <p>2. 豊かな人間性を備えた高度専門的職業人の育成のために、グローバル人材の育成、英語活動と英語教育、ICT活用、地域協働と組織マネジメント、インクルーシブ教育等の科目を体系的に編成している。</p> <p>3. 保育、幼児教育、小学校教育、中学校英語教育に関してそれぞれ実習科目を設定し、理論と実践の往還を踏まえた学修の集大成としての卒業研究に臨めるように教育課程を編成している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p> <p>（概要）</p> <p>○文学科</p> <p>1. 文学、言語、歴史、心理、また、文化や社会、人間などに対し幅広い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生</p> <p>2. 自ら問い、自ら考え、自ら学び、主体的に社会で活躍する意欲を持つ学生</p> <p>3. 大学で学修するために必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生</p> <p>○教育学科</p> <p>1. グローバル社会、多文化共生社会への幅広い関心を持ち、そうした時代に対応した人間形成のための理論・実践研究を深めようとする学生</p> <p>2. 教育への幅広い関心を持ち、教育実践者として、確かな知識と理論をもって教育の現代的課題の解決に向け意欲的に取り組もうとする学生</p> <p>3. 大学で学修するための必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、高度な教育実践者となるための意欲をもち他者と協力していくことができる学生</p>
<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p> <p>（概要）</p> <p>本学部では、次のような人材を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広い教養に支えられた高度な教育実践力をもつ教師・保育者の養成</li> <li>・ 知的世界に冒険者・先駆者として子どもを導くことのできる教師・保育者の養成</li> <li>・ 企画者・構想者・学習者・共創者・先導者・支援者・援助者として学校教育をリードできる教師・保育者の養成</li> <li>・ 自他の精神的自由を大切にし、自己変革・自己成長への勇気をもつ教師・保育者の養成</li> </ul> <p>これらの養成する人材像に基づき、以下の能力習得を目的とする：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な人々と異見や対立を乗り越え、課題に立ち向かい、新たな解や智を共創できるための基本的技能としての共創型対話力の修得</li> <li>・ 地球社会の一員としての当事者意識・多文化共生のマインドをもち、今ある現実の課題の解決のみでなく、未来を見据える思想の涵養</li> <li>・ 多様な知識・能力・理解・技能・経験などを統合・総合し、新たな解や知恵を生起させる共創力の習得</li> </ul>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p> <p>（概要）</p> <p>以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（教育学）」の学位を授与します。</p> <p>1. グローバルな視点で発想し、地域社会の教育と文化の発展に貢献できる。</p> <p>2. 教育に関する諸課題を主体的に発見・分析・理解し、幅広い専門的知見をもとにその対応策について協働的に考え、行動できる。</p> <p>3. 豊かな人間性や感性を備えた高度専門的職業人としての使命と責任を自覚し、継続的な自己研鑽への意志をもって教育活動に取り組むことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導論、教職論、保育原理などに関する教育学分野を中心に、教育活動全般で活用する基礎的な知識・技能の修得から専門的な知識・技能の修得に関する教育課程を体系的に編成する。</li> <li>2. 豊かな人間性を備えた高度専門的職業人の育成のために、グローバル人材の育成、英語活動と英語教育、ICT活用、地域協働と組織マネジメント、インクルーシブ教育等の科目を体系的に編成している。</li> <li>3. 保育、幼児教育、小学校教育、中学校英語教育に関してそれぞれ実習科目を設定し、理論と実践の往還を踏まえた学修の集大成としての卒業研究に臨めるように教育課程を編成している。</li> </ol>
--

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル社会、多文化共生社会への幅広い関心を持ち、そうした時代に対応した人間形成のための理論・実践研究を深めようとする学生</li> <li>2. 教育への幅広い関心を持ち、教育実践者として、確かな知識と理論をもって教育の現代的課題の解決に向け意欲的に取り組もうとする学生</li> <li>3. 大学で学修するための必要な日本語や英語の基礎的な力を備え、高度な教育実践者となるための意欲をもち他者と協力していくことができる学生</li> </ol>
--

学部等名 経済学部

教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）

<p>(概要)</p> <p>経済学を基礎とした論理的思考力を持ち、北陸地域の産業の知識集約化や高付加価値化に貢献できる人材、新しい地域社会をデザインできる人材を養成する。</p>
--

卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）

<p>(概要)</p> <p>○経済学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経済学）」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学に関する基礎的な知識を身につけている。</li> <li>2. 経済学、経営学を有機的に結び付けて理解し、問題の発見と解決に関心をもって適切に対応できる。</li> <li>3. グローバル及びローカルな視点に立って地域経済の問題について分析し、理解することができる。</li> </ol> <p>○経営学科 以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経営学）」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学に関する基礎的な知識を身につけている。</li> <li>2. 経営学、経済学を有機的に結び付けて理解し、問題の発見と解決に関心をもって適切に対応できる。</li> <li>3. グローバル及びローカルな視点に立って企業経営の問題について分析し、理解することができる。</li> </ol>
---

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）

<p>(概要)</p> <p>○経済学科 経済学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済に関する基礎的な知識を修得し、経済の仕組みや動きを理解できる能力を身につける。</li> <li>2. 地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた課題、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた課題などを把握できる能力を身に付ける。</li> <li>3. 地域経済の課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役や地域ビジネスの中核となって行動する能力を身につける。</li> </ol> <p>○経営学科 経営学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織運営や組織活動の評価に関する基礎的な知識を修得し、企業の仕組みや活動状況について理解できる能力を身につける。</li> <li>2. 企業活動の現状を経理・会計情報を基に分析し、客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明できる能力、企業の意思決定材料としての的確に情報提供できる能力を身につける。</li> <li>3. 的確なデータ分析を通じて、地域社会のニーズに応えた、価値のある製品・サービスを創造するなど、地域の課題に応える企業活動を牽引できる能力を身につける。</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>○経済学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済の仕組みや動きを理解、分析できる能力を身につけ、地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた諸課題を発見、その解決策を提案し、地域づくりの先導役なろうと考えている学生</li> <li>2. 地域経済の動向と企業経営との関係を理解し、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた諸課題を発見、その解決策を提案し、地域ビジネスの中核になろうと考えている学生</li> <li>3. 創造性豊かで地域社会に貢献する意欲を持つ学生</li> </ol> <p>○経営学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業経営の現状を経理・会計情報を基に分析し、意思決定材料としての的確に提供するとともに、客観的データを基に企業活動の状況を組織内外に説明することにより、適切な組織マネジメントをしたいと考えている学生</li> <li>2. 的確なデータ分析を通じて、地域社会のニーズに応えた、価値のある製品サービスを創造し、データ分析の結果をマーケティング、マネジメント、経営戦略等の強化に活用したいと考えている人材</li> <li>3. 創造性豊かで地域社会に貢献する意欲を持つ学生</li> </ol>
<p>学部等名 経済情報学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>経済に関する知識をもとに、地域社会が持つ課題に対応できる、実践的なスキルを身につけた人材の育成を目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>

<p>(概要)</p> <p>以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（経済情報学）」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学、経営学及び情報学に関する基礎的な知識を身につけている。</li> <li>2. 経済学、経営学及び情報学を有機的に結びつけて理解し、課題の発見と解決に関心をもって適切な対応できる。</li> <li>3. グローバル及びローカルな視点に立って企業経営や経済の問題について、適切なデータ分析を活用して理解することができる。</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>経済情報学科では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済に関する基礎的な知識を修得し、経済の仕組みや動きを理解できる能力を身につける。</li> <li>2. データ分析に関する情報学的な知識を修得し、経済の理解に基づく情報処理能力を身につける。</li> <li>3. 地域経済の現状を分析し、地域の持続可能性の向上に向けた課題、地域経済・社会の活性化と企業経営の両立へ向けた課題などを、情報分析能力をもって把握できる能力を身につける。</li> <li>4. 地域経済の課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役や地域ビジネスの中核となって行動する能力を身につける。</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学及び経営学の学びを基礎とし、地域社会における課題に対し、社会環境の理解と各種データの活用により、地域の産業の進展に貢献し地域社会を豊かなものにしようと考えている学生</li> <li>2. 各種データを分析するための ICT 活用能力を有し、それをツールとして用いて組織の業務プロセスを革新するためのプロジェクトマネジメント能力を修得することにより、地域の幅広い組織・企業において活躍したいと考えている学生</li> <li>3. 創造性豊かで、地域社会に貢献する意欲を持つ学生</li> </ol>

<p>学部等名 芸術学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>表現領域についての広汎な技術及び知識と、社会に対する深い洞察力を養成し、円滑な意思疎通や自己表現に資することのできる創造性豊かな人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、「学士（芸術学）（Bachelor of Art and Design）」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現領域についての広汎な技術および知識と、社会に対する深い洞察力を有し、円滑な意思疎通や自己表現ができる。</li> <li>2. 創造的かつ論理的な思考力を持ち、社会における自己の役割を認識し、自ら考え、自ら行動できる。</li> <li>3. 芸術の専門的な知識・表現技術のみならず、創造性・観察力、課題発見・解決能力を、現代社会の多様な分野で活かすことができる。</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創造の基盤となる「芸術表現基礎」を配した初年次教育</li> <li>2. 広い視野と人生を豊かにする教養を身につける一般教養教育</li> <li>3. 自らの考えを広く世界に発信する力を身につける外国語教育</li> <li>4. 柔軟な発想と理解力を身につけるための横断的かつ多様な学びができる履修制度</li> <li>5. 協働で問題解決を図るためのコミュニケーション能力を身につける教育</li> <li>6. アクティブラーニングや地域連携等の活動を通して主体的に学ぶ実践教育</li> <li>7. 芸術全般に関する知識や技能の修得を通して、地域社会との繋がりを理解する教育</li> <li>8. 自らが選択した表現領域における専門教育</li> <li>9. 主体的学修の集大成としての卒業研究・卒業制作</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵画、造形、デザイン、映像、メディアに対する強い興味、また、社会や人、芸術全般に対する関心を自らの人生目標に反映させようとする学生</li> <li>2. ものごとへの誠実な取り組み姿勢と五感を働かせて学びとる成果を、主体的に社会に還元していこうとする学生</li> <li>3. 大学で学修するために必要な国語力、現代人としての教養を身につけ、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生</li> </ol>
<p>学部等名 スポーツ科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指し、それに必要な能力を習得させる。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ科学（健康科学を包含）についての必要な知識と実践力を身につけている。</li> <li>2. スポーツに関連する社会および個人の問題点をみつけたし、その解決策を提供できる。</li> <li>3. アスリートはもとより、子供から高齢者までを対象に、スポーツプログラムを作成し、スポーツの科学的指導ができる。</li> <li>4. グローバルな視点にたつて、スポーツに関連する問題を考え、提言できる。</li> <li>5. スポーツ科学の知識と実践力を、地域社会に役立てる。</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツに関連する知識の習得に向けて、人文・自然科学の基礎的な能力、言語能力および情報能力を身につける。</li> <li>2. 現状の自己分析と自己形成の方法を学び、将来の社会人としての在り方を、スポーツと関連づけてデザインできる能力を身につける。</li> <li>3. スポーツの自然・社会科学の理論を総合的に理解し、指導力、実践力およびマネジメント能力を身につける。</li> <li>4. 地域社会におけるスポーツに関連する課題解決に向けて、自ら考え、地域づくりの先導役として行動できる能力を身につける。</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ・体育・健康の領域に対し強い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生。</li> <li>2. 身につけた運動技能に関する知識をさらに高めて、スポーツ科学・体育学・健康科学の発展に貢献する情熱と意欲を持つ学生。</li> <li>3. 高等学校段階までの保健体育で学習する内容を理解し、さらに大学で学修するために必要な基礎学力を備え、自らの考えを自らの言葉で発信できる学生。</li> </ol>
---

学部等名 栄養学部
-----------

教育研究上の目的 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
---------------------------------

<p>(概要)</p> <p>人々が健やかに豊かに暮らすことのできる社会を構築する人材を養成することを究極の目的とし、地域社会の中で人々と健康・医療・福祉・介護に関する多様な問題を協働して解決する変革力のある人材を育成する。</p>
--

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
------------------------------------

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 命の基本である食を通じた支援を人々に行う役割を担うことから、豊かな人間性と、その背景にある幅広く深い教養と知識を身に付けている。</li> <li>2. 少子高齢社会の到来や、人々の価値観の多様化などによる食を取り巻く環境の変化を受け、高度化かつ複雑化が進んでいる栄養に関する高度な専門知識と専門技術を身に付けている。</li> <li>3. 食環境・食文化を含めた食に関わる幅広い知識と技能を修得することにより、栄養学の概念を論理的かつ科学的に理解している。</li> <li>4. 地域社会における、健康の維持・増進、疾病の予防・治療、高齢者の低栄養・介護予防に必要な栄養学及び関連学問分野の知識と技能を修得している。</li> <li>5. 食と栄養と健康に関して、科学的根拠に基づいた論理的な思考ができる。</li> <li>6. 予防の観点から、栄養に関わる諸問題を解決し、地域・医療・福祉・介護における栄養管理・栄養改善を実践できる。</li> <li>7. 地域・医療・福祉・介護における栄養管理・栄養改善に、社会的な責任のもとに取り組む意欲をもつ。</li> </ol>
---

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
--

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学共通科目においては、社会人としての知の基盤となる、教養と幅広い知識を身につけることで豊かな人間性を養う。</li> <li>2. 1年次に導入分野を開講することで、管理栄養士における専門職業人としての将来の進路に関心を持たせる。</li> <li>3. 2年次から専門基礎科目に加えて新たに専門科目を開講して、講義と実習や演習を有機的に組み合わせて学修することにより、高度な専門知識と技能を修得する。</li> <li>4. 3年次及び4年次においては、臨地実習を病院・老人介護施設・保健所・保健センター、特定給食施設などできめ細かな指導のもとに行うことで栄養学の知識に加え技能を修得し、幅広い現場で実践できる能力を養う。</li> <li>5. 4年次に卒業研究を全学生に課すことにより、栄養学における課題の発見・問題解決能力を涵養する。</li> </ol>
---

入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
--------------------------------------

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間、健康、栄養そして食への関心があり、栄養学を学ぶ強い意志をもち、人間性と生命に対する畏敬の念を有する人</li> <li>2. 栄養学を学ぶにあたり、必要な基礎学力に加え、論理的な思考能力を有する人</li> <li>3. 知識・教養を基盤として、深い思考のもとに適切な判断ができ、柔軟な思考のもとに自由な発想で問題を解決し、また、コミュニケーション能力を磨き、自己表現能力を高めようとする高い志がある人</li> <li>4. 人とのかかわりを大切にし、多様性を尊重してチームワークのとれる豊かな人間性を持つ人</li> <li>5. 本学で学んだことを生かし、地域と社会において人々の栄養改善・健康増進に貢献したいという意欲と熱意を持つ人</li> </ol>
--

学部等名 人間健康学部
-------------

教育研究上の目的 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
---------------------------------

<p>(概要)</p> <p>○スポーツ健康学科</p> <p>人間健康学部スポーツ健康学科は、体力等の向上を図る地域のスポーツ愛好者から競技力の向上を図るアスリートにいたるまでの最先端のトレーニング論と、現代社会に求められる健康づくりや身体づくりのための健康科学を、理論と実際の面から学び、スポーツ及び健康にかかわって深く貢献できる次代を担う人材を育成する。</p> <p>本学科の教育研究は、専門知識と理論の習得はもとより、社会の変化や時代が要請する創造性と革新性を志向する人材、人格においても高い倫理性と社会的規範を有する人材の育成を目指す。</p> <p>○健康栄養学科</p> <p>人間健康学部健康栄養学科は、建学の精神および教育理念に基づき、健康づくりを最新の栄養学の観点から学び、専門的かつ高度な視点から地域の健康と栄養に関わる課題を捉え、生涯に亘る健康の維持・増進に貢献できる管理栄養士の育成を目指す。より具体的には、地域のニーズに応える管理栄養士の養成を図り、医療、福祉、学校における食育など様々な場面で高度な栄養ケアマネジメントおよび栄養教育の中核となって地域の健康増進に資する管理栄養士を育成する。</p>
---

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
------------------------------------

<p>(概要)</p> <p>以下の力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に、スポーツ健康学科では「学士 (スポーツ健康学)」、健康栄養学科では「学士 (栄養学)」の学位をそれぞれ授与します。</p> <p>○スポーツ健康学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ、健康についての必要な知識と能力を身につけている。</li> <li>2. スポーツ科学、健康科学に関する基礎的知識を身につけ、各人に対する問題点をみつけだし、適切なプログラムを提供できる。</li> <li>3. グローバルな視点に立って、スポーツや健康の問題を考え、提言できる。</li> <li>4. アスリートのためだけでなく、子供から高齢者まで、楽しく正確にスポーツや運動を指導できる。</li> <li>5. スポーツ科学や健康科学を通じて地域社会に貢献できる。</li> </ol> <p>○健康栄養学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広い視野を有し、深い教養と豊かな人間性を身につけている。</li> <li>2. 医療、福祉、介護などの現場で適切な栄養ケアマネジメントを行う力を身につけている。</li> <li>3. 栄養教育活動に積極的に参加し、生活習慣病予防に貢献する意欲をもっている。</li> <li>4. 地域との連携を重視し、地域の食文化の継承に積極的に関わることができる。</li> </ol>
--

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学ホームページ「情報公開」)
--

<p>(概要)</p> <p>人間健康学部では、「養成する人材像」に基づき、以下のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学教育の基礎となるスキルを身につける初年次教育</li> <li>2. 状況を見極め分析し、自己発信する力を身につけるキャリア教育</li> <li>3. スポーツ健康学と健康栄養学を総合的・体系的に学ぶ専門教育</li> <li>4. 地域の健康問題に関心を持ち、課題解決能力を養う教育</li> <li>5. 主体的学修の集大成としての卒業研究</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ「情報公開」）</p>
<p>(概要)</p> <p>○スポーツ健康学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体育・スポーツ・健康の領域に対し強い興味と関心を持ち、自分の目標や希望が明確である学生</li> <li>2. 身につけた運動技能に関する知識をさらに高めて、体育・スポーツの発展に貢献する情熱と意欲を持つ学生</li> <li>3. 高等学校段階までの保健体育で学習する内容を理解し、さらに大学で学修するために必要な国語力を備え、自らの考えを自らの言葉で発信できる学生</li> </ol> <p>○健康栄養学科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康や栄養に関心を持ち、食と栄養に関する専門職として管理栄養士になることを目標に、その専門的かつ高度な知識・技術を真摯に学ぼうとする意欲のある学生</li> <li>2. 修得した専門的かつ高度な知識・技術を人々の健康のために役立て、地域社会の福祉や発展に貢献したいという意欲のある学生</li> <li>3. 管理栄養士養成課程で学修するために必要な日本語、英語及び化学・生物における十分な力を備え、さらにそれを伸長する努力を惜しまない学生</li> </ol>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：本学ホームページ「情報公開」</p> <p><a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/academics/#academics-struct">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/academics/#academics-struct</a></p>
---



③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部		9人	5人	8人	0人	0人	22人
教育学部		6人	7人	4人	2人	0人	19人
経済学部		11人	4人	3人	0人	0人	18人
経済情報学部		7人	2人	2人	1人	0人	12人
芸術学部		7人	5人	2人	0人	0人	14人
スポーツ科学部		7人	2人	2人	7人	1人	19人
栄養学部		10人	3人	0人	0人	5人	18人
基礎教育機構		2人	2人	2人	0人	0人	6人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			56人				56人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ「教員紹介」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/teacher/">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/teacher/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	180人	140人	77.8%	856人	874人	102.1%	13人	3人
教育学部	70人	65人	92.9%	140人	137人	97.9%	0人	0人
経済学部	180人	224人	124.4%	660人	739人	112.0%	10人	2人
経済情報学部	70人	53人	75.7%	280人	278人	99.3%	0人	0人
経営情報学部	0人	0人	0%	0人	16人	0%	0人	0人
芸術学部	80人	71人	88.8%	299人	324人	108.4%	7人	7人
スポーツ科学部	150人	163人	108.7%	460人	499人	118.5%	10人	1人
栄養学部	80人	96人	120%	245人	253人	103.3%	5人	3人
人間健康学部	0人	0人	0%	215人	255人	118.6%	0人	0人
合計	810人	812人	100.2%	3155人	3375人	107.0%	45人	16人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	254人 (100%)	6人 (2.3%)	229人 (90.2%)	19人 (7.5%)
経営情報学部	186人 (100%)	0人 (0%)	181人 (97.3%)	5人 (2.7%)
芸術学部	75人 (100%)	1人 (1.3%)	69人 (92.0%)	5人 (6.7%)
人間健康学部	221人 (100%)	2人 (0.9%)	213人 (96.3%)	6人 (2.7%)
合計	736人 (100%)	9人 (1.2%)	692人 (94.0%)	35人 (4.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全学科の教育課程表は、本学ホームページ「情報公開」で公開している。また、シラバスについてもすべての授業についてWeb化しており、本学ホームページのトップページ及び「情報公開」いずれからでもアクセスできるようになっている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 入学生に配付している学生便覧に「金沢学院大学学修の手引き」を記載し、科目の履修および単位の修得、卒業要件単位等について明記している。あわせて履修の登録や取消の方法、試験と単位の認定、GPAの算出方法についても明記し、周知している。				
学部名	学科名	卒業に必要なとなる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	文学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
教育学部	教育学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
	経営学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
経済情報学部	経済情報学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
芸術学部	芸術学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
スポーツ科学部	スポーツ科学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
栄養学部	栄養学科	128 単位	有・無	年間 48 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ「情報公開」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/</a>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	文学科日本文学専攻 文学科英米文学専攻 文学科心理学専攻	730,000円	200,000円	290,000円	1年次のみ、 その他 280,000円
	文学科歴史学専攻	730,000円	200,000円	310,000円	
	教育学科	750,000円	200,000円	370,000円	
教育学部	教育学科	750,000円	200,000円	370,000円	
経済学部	経済学科	730,000円	200,000円	330,000円	1年次のみ、 その他 270,000円
	経営学科				
経済情報学部	経済情報学科	730,000円	200,000円	390,000円	1年次のみ、 その他 330,000円
芸術学部	芸術学科	850,000円	200,000円	430,000円	
スポーツ科学部	スポーツ科学科	770,000円	200,000円	340,000円	
栄養学部	栄養学科	850,000円	200,000円	430,000円	
人間健康学部	スポーツ健康学科	770,000円	200,000円	340,000円	
	健康栄養学科	850,000円	200,000円	430,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生に配付する学生便覧に「金沢学院大学学生規則」を掲載し、学生の修学に係る支援について明記している。また、本学独自の奨学金制度をはじめ、各種奨学金については、本学ホームページやキャンパスガイド等に記載し、周知している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職支援部では、学生一人ひとりの希望に応じた職種・業種の紹介や就職相談をはじめ、個別の模擬面接、試験対策「KGC講座(金沢学院キャリア講座)」、企業採用担当者を招いての「学内企業説明会」など、さまざまな取り組みを実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学内に「保健室」と「なんでも相談室」を設置している。 保健室は、学生自身が健康への関心と理解を深め、充実した学生生活を送っていくことができるようサポートしており、「なんでも相談室」は、心身の健康、人間関係、修学・履修、進路・就職、その他どんな学生生活上の問題についても相談に応じ、学生自身が、不安なく充実した学生生活を送っていくことができるようサポートしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ「情報公開」 <a href="https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/">https://www.kanazawa-gu.ac.jp/aboutus/information/</a>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F117310105497
学校名	金沢学院大学
設置者名	学校法人金沢学院大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		312人	296人	330人
内 訳	第Ⅰ区分	167人	176人	
	第Ⅱ区分	78人	71人	
	第Ⅲ区分	67人	49人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				333人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。